

第2回 第4次清瀬市民地域福祉活動計画策定委員会概要

《会議概略》

日時 令和3年8月2日（月）10時～12時00分

場所 コミュニティプラザ 会議室1

出席 赤川都 石崎勇仁 伊藤淳一 岩崎雅美 小滝一幸 後藤清 齋藤靖之
高橋紘之 土屋テル子 長嶋潤 林清 菱沼幹男 増田恵美子 山村康一

事務局 山下晃 大熊静子 星野孝彦 奥山裕司 関口美智子 富田千秋 千葉美由紀

1. 開会

社会福祉協議会事務局長より

2. あいさつ

社会福祉協議会会長より

3. 第1回策定委員会議事録について

★ 資料1に基づき、事務局より説明

事務局 確定とし、委員名は伏せ、ホームページにて公開する。

4. 第3次清瀬市民地域福祉活動計画の評価について

★ 資料2・3に基づき、事務局より説明

委員 制度の狭間の問題への対応について、生活困窮者は、民生・児童委員や社協が働きかけても、問題を自身のことと受け止められない、また、どこに相談して良いかわからないという人がいる。事例をあげると、体調が悪くても、生活が困窮していて受診できなかった例がある。どうすれば市民の方に相談機関を伝えることができるだろうか。

事務局 第3次の課題となった、地域活動に関わるサポーターの育成ができなかった。一方、社会福祉法人が相談を受け止める窓口を作った。第3次においても、狭間の人がつながる方法について意見を頂いた。第4次でも考えていきたい。

委員長 相談に来る人は意欲のある人。相談につながりづらい人がつながるための仕組みや、地域の基盤づくり、また、地域福祉コーディネーターの関わりについては、これから検討していきたいところ。

委員 資料3の「第4次につなげていきたいこと」と、これから行うアンケートの連携はいかがか。また、資料3の4「小地域ごとの住民組織の立ち上げと福

- 社推進力の強化」は、資料2のどの箇所にあたるか。
- 事務局 資料2の4「支え合える地域」にあたる。第3次と第4次で使用している言葉にずれがあるので、整理していきたい。
- 委員 円卓会議・地域づくりの会について、企画課と社協が組織化を進めた所と、従前から活動している所は、参加している層に違いがあるのか整理しておく必要がある。また、生活支援コーディネーター第3層・4層は、地域ささええあいサポーター、ふれあい協力員の関わりにより、民生・児童委員が活動しやすくなるような活動が必要になるのではないか。
- 地域福祉コーディネーターの推進が進んでいない件について、地域の中で困っているが、相談につながっていない人の自立に向けた個別支援を、専門職が担っていく必要がある。子ども食堂を例にあげると、集合形式では参加しづらい人へは、配達を行い、関係性をつくっていくなど。個別支援から自立支援に結び付けた実績を積み重ねることで、地域福祉コーディネーターの配置を行政も推進しやすいのではないか。
- つながり作りと個別支援の2つの方向性から、第4次で整理したい。
- 委員長 清瀬には多様な地域活動があり、統一するのではなく、つながれると良い。
- 事務局 地域づくりは見守りから生活支援まで様々であり、地域福祉コーディネーターと共に、取り組みや、生活支援コーディネーターとの連携についても考えていきたい。

5. アンケート調査票および配布先について

★ 資料4・5に基づき、事務局より説明

- 委員 配布先にこども劇場を追加してはどうか。東星学園は市内在住者のみか。また、保育園を公立のみとしている理由は何か。
- 事務局 こども劇場は追加したい。東星学園については、学校からお答えいただく。保育園は、社会福祉法人の枠に私立保育園を含んでいる。
- 委員 アンケート項目の順番について、プライベートに関わる居住地域等は最後が良いのではないか。他の方の意見も聞きたい。
- 委員長 両方のパターンが考えられる。どちらが効果的か。
- 委員 高齢者福祉計画策定時は最初であった。
- 委員長 社協はこれまで、基本属性を最初か最後どちらに入れることが多かったか。
- 事務局 最初が多い。
- 委員 書きやすいことが最初にあるとアンケートに答えやすい。自分のこと（基本属性）が最初だと書きやすいのではないか。
- 委員 クロス集計はどの部分で行うのか。
- 委員長 地区や年代、居住歴など、可能な範囲で行ってほしい。調査票の順番は資料のままをしたい。

委員 視覚障害者へは聞き取りにするなど、調査方法の配慮が必要である。
事務局 サポートが必要な方には、団体の方と相談し調査方法を決めたい。

6. 作業委員会の進め方について

★ 資料6に基づき、事務局より説明

委員長 今回初めて作業委員会を設置する。より専門的な事柄を社協のみならず、関係所管課や現場の方と検討する場である。

委員 地域福祉コーディネーターの配置が進まなかった理由は何か。専門職の配置には予算が必要であり、今いる専門職が地域福祉コーディネーターの視点を持つ方が早く、具体的な手立てになるのではないか。
小地域の福祉推進組織づくりについて、現在も進んでいることは事実であり、新たにメンバーを集めるより、今いる人の人材育成に力を入れていくと良いのではないか。

委員長 作業委員会で検討する大事なポイントである。地域福祉コーディネーターのイメージの統一も図る必要がある。

事務局 第3次と第4次が別物にならないよう考えたい。地域福祉コーディネーターについても、配置がない中でも狭間の問題は相談を受けてきた部分である。しかし、支援会議の調整は不十分であり、配置があると調整の役割を担うことができるので、作業委員会の場でも議論ができると良い。

委員長 行政の地域福祉計画との連動も重要である。地域福祉計画の動きはいかがか。

委員 地域福祉計画の中でも地域福祉コーディネーターの位置づけをしている。重層的支援体制整備事業の動きとも整理しながら、配置について検討していきたい。

委員長 アンケート調査結果を踏まえ作業委員会で議論したものを、策定委員会でも確認し、計画策定に反映していきたい。

7. その他

★各委員より現在の活動等について情報提供

委員 学校支援本部の取り組みや避難所運営協議会は、緊急事態宣言を受け中止している。災害は待ったなしなので何か検討しないといけないと考えている。地域づくりの会も少人数の会議を再開したが、参加者が少ないため情報共有が広がっていない。

委員 相談先がわからない相談について、民生・児童委員の存在を高年齢層は知っているが、若い世代が知らないという声も聞く。

委員 アンケート配布数について、調査法の視点から有効な数とみられるのかどう

- か。地域づくりの会について、南口側が充実していて、北口側が不十分のように見えるが、いかがか。
- 事務局 配布数については、広く一般市民というよりも、幅広い層の生の声を拾っていくということに主を置いて取り組んでいきたい。地域づくりの会が偏在しているのも事実。取り組み支援を考えていきたい。
- 委員 地域福祉計画との整合性も大事な視点である。
- 委員 ひとまず相談窓口を担っているが、実績は1.2件。生活困窮者や制度の狭間の方は自身の困りごとに気づいていない、サービスを拒否される方などもある。このアンケートにどれだけ声を反映させることができるか。そこが大事かと思う。
- 委員 目指すところは暮らしやすい地域づくりだろうが、そこをつなぎ合わせていくのが地域福祉コーディネーターではないだろうか。アンテナをどのように張り巡らせていくのか、今後の取り組み、計画化の中で議論をしていきたいところ。
- 委員 民生・児童委員の主な活動は、高齢と児童が主。高齢者のところにポスティングをしたが、一般世帯にはポスティングできていない。小地域の福祉推進組織づくりに期待している。
- 委員 身体障害者相談員を担っている。SOS、異変をキャッチした市民が、どう相談につなげていくかという計画だと思う。考えていきたい。
- 委員 地域の中でのつながりや地域同士のつながりについて、ゴミ収集が個別回収になったことにより、自治会連合会では「自治会の意味がなくなった。自治会はいらないのではないか」と意見がでた。また、外国人はかかりつけ医という言葉を知らない。ワクチンのことも行き届かないだろう。リレー式で励ましの言葉を送り続ける取り組みを行ったところ、300件の反応があった。六小地区自治会連合会で、近くの他人になろうというスローガンで取組をすすめてきた。おまつり実施でつながりづくりに取り組んできたが、コロナで休止。車いすの方や高齢者がおまつりに参加することによって、支援を必要とする層のことを知る機会ともなっていたと思う。それがなくなった。
- 委員 下宿旭が丘地域づくりの会に、清明小学校保護者の会として参加したことが、地域づくりの会に関わるきっかけであった。代々の保護者の会役員が、地域づくりの会に参加することにしているが、人材が入れ替わることにもつながり、関心の高い方はOBとなっても残ってくれるだろう。常駐する層と入れ替わる層があることが良いと感じている。
- 副委員長 アンケートについて、数や集計も大切だが、書いてある声を大事にしていきたい。子どもは成長するので、本人の中で、何か記憶に残るアンケート調査となればよいとも思う。
- 委員 住民の生の声が大切。現在、出生児30人弱に一人は、片親が外国籍であり、外国籍の方への支援が必要になってくる。調査や円卓会議で見える住民の思

いや、地域または市全域での活動を推進していくことは、社協の行動計画とは別で考えても良いのではないか。

委員長 清瀬の強みは3つの大学があること。学生と地域がつながり、互いに win-win になると良い。

7. その他

★ 事務局より事務連絡

- ・委員報酬については、前回同様、1か月以内の振込とし、通知はしないので確認をお願いしたい。
- ・次回委員会は12月6日（月）10時から。その間に作業委員会、アンケート集計を実施する。結果等を通知するので、ご意見があれば事務局まで知らせてほしい。
- ・作業委員会については、開催について事前案内する。委員全員が必ず参加するものではないが、希望等を知らせていただきたい。

8. 閉会

社会福祉協議会事務局長より